



「1学期教育活動アンケート」を受けて

7月に実施した「教育活動アンケート」への御協力ありがとうございました。調査結果をまとめましたので御報告します。

【数値結果】

数値は、各項目の「あてはまる、どちらかと言えばあてはまる、どちらかと言えばあてはまらない、あてはまらない」の4つの選択肢のうち、「あてはまる」と回答いただいた割合(%)を示しています。

	質問項目	対象	R5/7月	R5/12月	R6/7月	順位
1	学校が楽しい	児童	63	60	60	
		保護者	57	58	51	保④
2	みんなで何かするのは楽しい	児童	76	76	75	児②
		保護者	64	68	64	保①
3	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	児童	56	47	52	児④
		保護者	21	22	18	保①
4	授業に主体的に取り組んでいる	児童	56	51	50	児③
		保護者	32	33	33	
5	授業がよく分かる	児童	55	52	52	児④
		保護者	21	22	27	保④
6	一人で考えたりみんなで考えたりするのは楽しい (昨年は「友達と関わりながら授業に参加している」でした。)	児童	69	64	64	
		保護者	38	41		
7	先生や友達の話をしっかり聞いている	児童	71	70	62	
		保護者	32	34	35	
8	先生や友達に自分の考えを伝えている	児童	54	47	49	児①
		保護者	24	24	22	保②
9	自分にはよいところがあります	児童	57	53	55	
		保護者	31	31	36	
10	友達のよいところを知っている	児童	77	81	76	児②
		保護者	46	48	47	
11	思いやりの気持ちをもって生活している	児童	64	62	63	
		保護者	48	50	50	保⑤
12	学校のきまりを守って生活している	児童	63	61	60	
		保護者	51	55	52	保③
13	体を動かすことが楽しい	児童	75	74	74	児③
		保護者	65	63	63	保②
14	食べ物に興味を持って給食を食べている	児童	58	55	54	
		保護者	44	47	46	
15	安全に登下校できるように気を付けている	児童	79	75	74	児③
		保護者	51	53	47	
16	学校や登下校中に地震が起きたとき、どのように行動すればよいか分かっている	児童	69	67	64	
		保護者	34	31	25	保③
17	自分のよいところやがんばっていることを、先生はほめたり認めたりしてくれる	児童	65	61	57	
		保護者	42	50	40	
18	家庭学習に自分から取り組んでいる	児童	54	50	56	
		保護者	33	29	32	保⑤
19	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている	児童	61	53	56	
		保護者	38	36	38	
20	家の人と将来のことについて話すことがある	児童	55	49	49	児①
		保護者	42	42	47	
21	学校に信頼できる先生がいる	児童	74	72	70	児⑤
		保護者	41	43	45	

<順位欄> 白丸数字は数値が高かった項目、黒丸数字は数値が低かった項目です。※裏面に続きます

【分析考察】

本校では学校教育目標に向け、ステージ制による教育効果の向上や、教職員によるつくり部ごとの重点的な取組を行っています。また、ともえの子アンケートの結果から取組についてチェックし見直すこともしています。今年度は、①「主体的に学びに向かう子」の育成に向けた個別最適な学び・協働的な学びの充実を意識した授業づくり、②集団生活での規範意識の向上、かかわり合いの中で児童が成長を実感することに、特に意識して取り組んでいます。

また、本校の合い言葉「ともだちをもっともっと笑顔にしよう」を児童・教職員が共有し、相手を意識した心持ちや姿勢によって多様な児童が共に育つことを目指しています。

【方策】

◇ステージ制による教育効果の向上

であいステージ(4・5月)では「みんなが気持ちよく過ごすための学校のきまりを知ろう」を目標に、学校生活に対する意識の向上やルール・マナーの定着を図りました。

つながりステージ(6・7月)では「友達の方を向いて反応しながら聞きます」を目標に、「聞くスキルトレーニング」に全校で取り組んだり、ペア活動や学級での話し合い活動の充実を図ったりしました。



【成果と課題、今後の対策】

＜成果＞

設問11「思いやりの気持ちをもって生活している」、設問12「学校のきまりを守って生活している」の数値が主に保護者の回答で高い水準を維持しています。また、設問1「学校が楽しい」設問2【みんなで何かをするのが楽しい】の数値も高くなっています。このことから、お互いのことを思いやりながらみんなが気持ちよく生活するための素地となる、学級(学校)への安心感が育っていると考えます。

＜課題＞

一方、設問8「先生や友達に自分の考えを伝えている」の数値が低く、授業等ではインプットはできていてもアウトプットすることに課題があるのではないかと考えます。

＜今後の対策＞

きょうりょくステージ(8～10月)では「友達と協力し合って活動に取り組めます」を目標に、運動会等を通して集団で力を合わせ取り組む機会を充実させたいです。ちょうせんステージ(11・12月)では「友達の意見とつなげながら話し合います」が目標です。様々なことにチャレンジしたり、それによって自分の目標をもちそれに向かって取り組む意識を育てていきたいです。

◇重点的な取組

主体的に学びに向かう子の育成に向け、学習習慣の確立や個別最適な学び・協働的な学びの充実に向け取り組んでいます。具体的には、課題に対するまとめや振り返りを自分の言葉で書くこと、友達と学び合う機会を意図的に設定し考えを広げたり深めたりすることなどです。また高学年では、ICTを活用しながら単元の中で探究的に学ぶ際の手段を自分で選択するなどの取組も行っています。

児童会・委員会活動では、課題と感じることにに対して児童のアイデアをもとに活用しています。学校だよりでも紹介した、ねこの里親探し(児童会)や花壇の花プレゼント企画(園芸委員)などは、学校に笑顔があふれるすてきな活動になりました。



＜成果＞

設問4「授業に主体的に取り組んでいる」、設問5「授業がよく分かる」、設問8「先生や友達に自分の考えを伝えている」の数値が低く、「主体的に学ぶ」という点ではまだまだ課題が多いことが分かります。

設問6「一人で考えたりみんなで考えたりするのは楽しい」(昨年度までは「友達と関わりながら授業に参加している」)の数値は比較的高いことから、みんなで何かをするよさを味わうことができています。

＜今後の対策＞

児童のよさを生かし協働的な学びを上手に取り入れながら、一人一人の主体的学びを充実させていくかということが重要であると考えます。

また、個別最適な学びの充実という点からも、一人一人が「学びになった」という実感を得られ次への意欲をもてるよう、「自分が何を学んだか」という学習の振り返りを表現することを大切にしていきます。

年度の後半では、運動会や6年生ありがとうの会などの全校で取り組む行事をはじめ、仲間とともに同じ目標に向かって協力・挑戦する経験や自分の成長を振り返る経験を味わうことができると考えます。そうした中で、設問20「家の人と将来のことについて話すことがある」や、設問9「自分にはよいところがある」などの数値が高まっていくのではないかと考えます。ぜひ、学校での出来事や行事などの折には、家庭内で話題に挙げていただければと思います。

「夢いだき ともに高め合う子」に向けて

学校教育目標の達成に向け私たちは、「目標をもち、友達と協力しながら目標達成に向けて高め合い、充実した学校生活を送ってほしい。」と願い、受容を大切に日々声掛けをしています。6年生の全国学力学習状況調査の結果からは北小児童の自己有用感の高さが目立ち、普段の様子からもそれを感じることが多いです。これまで積み重ねてきたことをさらに磨いて、「ともだちをもっともっと笑顔にできる北小学校」にしていきたいと思ひます。